

いのち
生命と神話が息づく

新しい日本のふるさとづくり

ようこそ 日本のふるさとへ

雲南市の歌

作詞 石井昭吉
作曲 菅田 茂

流れきらめく 斐伊の川
大地豊かに 潤して
四季の装い 艶やかに
人の温もり 愛がある
ああ美しき 雲南市
明日に伸び行く わがまちよ

神話息づく 山脈に
歴史文化が こだまする
祭囃子に 夢のせて
笑顔あふれる 歌がある
ああ芳しき 雲南市
心安らぐ ふるさとよ

霞たなびく 里の山
緑豊かに いつの代も
絆深める 人の和が
活気あふれる 明日創る
ああ誇らしき 雲南市
希望輝く わがまちよ

(平成26年11月1日制定)

ごあいさつ

雲南市は、人口の社会増、とりわけ20代、30代の若い世代の定住、社会増加をすすめるよう、子育て、教育、住宅、雇用、定住などの分野を重点分野として施策を展開しています。

そして、少子化、高齢化が進む中、地域が抱える課題解決に向け積極的に取り組んでいます。「自立した社会性のある大人をめざす」キャリア教育とおした子どもたちのチャレンジ、大人版幸雲南塾活動を中心とする若者たちのチャレンジ、地域自主組織活動を中心とする大人たちのチャレンジ、これら3つのチャレン

ジがお互いに重なり合い、連鎖することによって、新しい活動が生み出され、それが確実にまちづくりの推進のエンジンになりつつあります。

また、中国横断自動車道尾道松江線の全線開通や、新庁舎も完成し、さらに市立病院改築については、平成30年3月の開院に向け取り組むなど、大型事業も着実にすすめています。

今後も雲南市が継承してきた恵みを生かし、これまでの歩みと成果を大切にしながら、市民の皆様とともに一歩一歩力強くまちづくりをすすめてまいります。



雲南市長 速水雄一

雲南市のプロフィール

地勢

島根県の東部に位置し、面積は553.18km²です。北部には出雲平野や宍道湖が広がる松江市、出雲市と接し、南部には中国山地が連なり、広島県に接しています。

市内には、斐伊川と支流の赤川・三刀屋川・久野川などのほか、神戸川に注ぐ稗原川、波多川が流れています。このため、加茂町から大東町、木次町、三刀屋町にかけ、斐伊川と赤川、三刀屋川の合流地点を中心に平坦部が広がっていますが、南部は中国山地に至る広範な山間部となっています。

歴史

市内各地には神話や伝説が残り、多くの遺跡や古墳が発掘されています。こうした遺跡や神社、地名の由来は「出雲国風土記」にたどることもできます。また、平成8年10月には一カ所の出土としては全国最多となる39個の銅鐸が加茂岩倉遺跡から出土しています。

市の中央を縦断する斐伊川は、ヤマタノオロチ伝説でも知られ、古くから支流周辺の低地では農耕が営まれ、また、山間部ではたたら製鉄や炭焼きが盛んに行われてきました。

雲南市は、山陰と山陽を結ぶルート上に位置するため、古くから交通の要衝として栄えてきました。明治5年の廃藩置県や明治22年の町村制施行、昭和27～33年の町村合併などを経て、平成16年11月1日、大東町・加茂町・木次町・三刀屋町・吉田村・掛合町の6町村が合併し、雲南市としてスタートしました。

人口

雲南市の人口は、平成22年国勢調査によると41,917人で平成17年国勢調査と比較すると、2,486人(△5.6%)減少し、うち65歳以上の高齢人口が占める割合は、32.9%と年々高齢化が進んでいます。年齢別人口構成は、少子高齢化が進み、平成2年には高齢化率が年少人口割合を上回り、平成22年には年少人口割合は12.2%となりました。

産業

農林業

木次町・吉田町を中心に有機農業への先駆的な取り組みが行われ、安心・安全な農産物の生産地として評価を得ており、米や畜産、野菜、花き栽培など良質な農畜産物が生産され、乳製品やワイン、味噌などの多彩な加工品も作られています。

零細な経営基盤が多く、農家の高齢化は進んでいますが、産直市や関西方面への販売など独自の販路も確保され、また集落営農組織や農業法人、Uターン等の新規就農者による営農も取り組まれています。

一方、野生鳥獣による農作物等への被害が深刻化しているため、猟友会による捕獲や防護柵の設置など様々な獣被害防止対策を実施しています。

林業では、国内の木材価格は低迷していますが森林組合等による素材生産は伸びており、更に豊富な森林資源の新たな活用策として、木質チップボイラー等の整備を中核として市民参加による林地残材の収集運搬や地域通貨も活用した森林バイオマスエネルギー事業の取り組みを進めています。

工業

木次町・加茂町等に工業団地が整備されており、誘致企業をはじめとする事業所が立地しています。特に木次町には一般機械製造業、電気機械製造業等の集積がすすんでおり、平成25年工業統計調査の製造品出荷額は県内第4位となっています。産業分類別でみると、食料品、衣料、木材、一般機械などの事業所が多くみられます。

商業

木次町や三刀屋町が小売業中心地となっており、商業集積や商業環境が充実しています。一方、他市町の大店や専門店への消費の流出により、各町の商店街では空洞化や低迷が顕著です。このため、「中小企業振興基本条例」に基づき、地域経済振興会議において市内事業者や支援機関が一緒になって議論する場を設けています。

観光

豊かな自然・歴史資源に恵まれており、観光資源が豊富にあります。公園・温泉・博物館・ゴルフ場・道の駅等の観光・レクリエーション施設も多数整備されており、雲南市には年間148万人が訪れています。

第2次雲南市総合計画

まちづくりの基本理念

いのち
「生命と神話が息づく 新しい日本のふるさとづくり」
「課題先進地」から「課題解決先進地」へ

これからの10年。私たちは、力を合わせて課題を乗り越えるという合併時の決意を忘れず、さらに歩みをすすめます。グローバル経済が進展する社会において、経済の好循環と地域の自立に向けた挑戦。平和や地球環境、食料、エネルギーなど地球規模の課題に対しての雲南市の責務の遂行。格差や差別のない、安全・安心な暮らしづくり。そして、何よりも持続可能な地域に向け、人口の急激な減少を食い止める挑戦。私たちは、雲南市が継承してきた恵みを活かし、助け合い、情報を共有し、互いに学び合い、そして、外へ伝え、外とつながっていくことで、これらの課題に立ち向かいます。我が国の人口減少、少子高齢化社会における課題は、今後、世界が抱える課題でもあります。「課題先進地」から「課題解決先進地」へ、雲南市がすすめる取り組みは、世界に提案する私たちのまちづくりです。

私たちは、「人と自然と歴史と食の幸」を受け継いできたことに感謝し、大切にしていきます。
私たちは、その幸を活かし、市民力を結集し、課題に立ち向かいます。
私たちは、挑戦を通し交流を生み出し、世界につながります。

雲南市のめざす姿

雲南市の挑戦

多彩な地域づくり組織や市民と行政の協働により、「課題先進地」から「課題解決先進地」へと失敗を恐れない挑戦を続けます。

分野ごとの将来像

<p>みんなで築くまち (協働・行政経営)</p> <p>交流人口を拡大し、訪れる人が住みたくなる魅力あふれるまちに向け、地域づくり活動や若者のチャレンジを支援するほか、中間支援組織の育成など、時代を先取りする行政経営に挑戦します。</p>	<p>安全・安心で快適なまち (定住環境)</p> <p>安全・安心な生活を営むための生活基盤の計画的な整備や維持のほか、自然災害や原発事故などに備える体制の整備をすすめるほか、地域自主組織の自主防災・防犯の活動を支援します。また、都市機能の充実や定住のための住宅施策を一層すすめます。</p>	<p>支えあい健やかに暮らせるまち (保健・医療・福祉)</p> <p>子どもたちが健やかに育つよう、子育てしやすい環境を一層充実させます。また、医療体制の充実とともに、介護・障がい福祉サービス基盤の充実を図り、事業者とともにサービス提供に努め、自立に向けた支援をします。</p>	<p>ふるさとを学び育つまち (教育・文化)</p> <p>確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む教育環境の充実を図るとともに、学校・家庭・地域(企業・NPO等を含む)との協働により、子どもから大人まで多様な学びの環境と機会の充実を図ります。</p>	<p>挑戦し活力を産みだすまち (産業)</p> <p>農林業や観光、中小企業の振興に加え、企業立地のための環境整備を図るとともに、創業者や経営者の活力ある産業振興に向けた挑戦を支援します。</p>
---	--	---	--	--

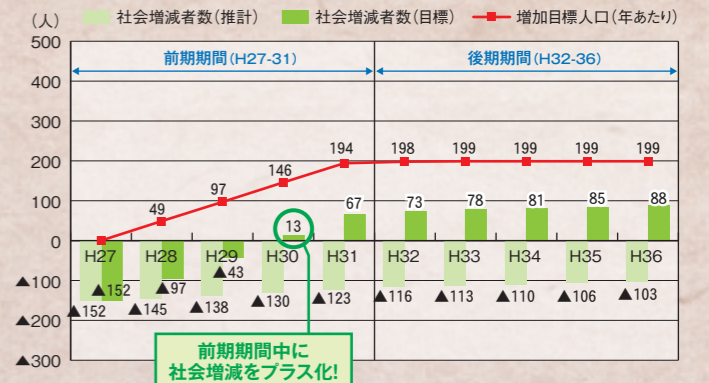
『人口の社会増』への挑戦

私たちの挑戦

私たちは、前期基本計画(H27-H31)期間中の早い段階で、社会動向による人口の減少を食い止め、後期基本計画(H32-H36)期間中に増加となるまちに向け、挑戦をはじめます。

人口増に向けた取り組み

私たちは、20歳代・30歳代を中心とした子育て世代の市外流出の抑制、移住・交流人口の確保に取り組めます。行政は、子育て環境の整備、質の高い教育の提供、雇用や住宅施策など魅力あるまちづくりに対し大胆な施策を展開し、若者の流出を防ぎ、転入人口の増加を誘導することにより、長期的な出生数の向上につなげます。さらに、「人づくり」や「若者誘致」をすすめ、雲南市の若者と全国から集まった若者がいきいきと課題解決にチャレンジをするまちをめざします。



平成28年度の主な取り組み

◆みんなで築くまち《協働・行政経営》

住民主体の地域づくり組織による小規模多機能自治に挑戦する全国の自治体等とネットワークを構築（代表：雲南市）して、相互の情報交換・学び合いにより、小規模多機能自治を推進しています。

また、社会起業や地域課題の解決をめざす若者チャレンジでは、起業や事業継続などに必要な専門的スキルや技術を持つ人材の誘致や専門ノウハウを移転することにより、チャレンジの推進に取り組んでいます。

さらに、定住支援スタッフによる移住相談や空き家の活用、地域との協働による定住促進を行うほか、求められている介護人材の誘致にも取り組んでいます。



◆安全・安心で快適なまち《定住環境》

都市づくりの基本計画である「雲南市都市計画マスタープラン」に基づき、「暮らしやすい都市づくり」をめざし、中心市街地などの整備を進めようとしています。

また、「人口の社会増」に向け、子育て世帯への市有宅地の長期貸付・譲渡や民間分譲宅地の購入助成、新築住宅に対する固定資産税の課税免除期間の延長を行っています。併せて、住宅リフォーム助成事業などにより安全で快適な住まいづくりへの支援を行っています。

このほか、公共交通対策として、市民バスの増便やだんだんタクシー（デマンド型乗合タクシー）のエリア拡大を図るなどきめ細やかな運行に取り組んでいます。



◆支えあい健やかに暮せるまち《保健・医療・福祉》

雲南圏域の中核病院である雲南市立病院の新本館の建設を平成30年3月の開院をめざし進めています。

また、身体活動を通じた市民の健康づくりに関する教育・研究・評価活動に取り組む「身体教育医学研究所うんなん」は設立10周年を迎えました。これまでの成果を更に積極的に発信することで、市民の健康増進により一層取り組んでいます。

一方、子育て世帯の経済的負担を軽減するため、義務教育終了までの子ども医療費無料化や第3子以降の保育所・幼稚園保育料無料化を実施しています。

さらに、保育所と幼稚園の機能を併せ持つ「認定こども園」の整備をすすめています。

このほか、認知症対策、障がい福祉サービスなどの日常生活の支援の充実を図っています。



◆ふるさとを学び育つまち《教育・文化》

第3次雲南市教育基本計画に基づき、学校・家庭・地域（企業・NPO等を含む）・行政の協働により、幼児期から高校までの一貫したキャリア教育や学校外での土曜学習の充実に取り組むほか、小中高一貫教育や放課後学習などによる学力の向上を図っています。

また、平成26年度より中学校の普通教室への空調施設の整備を行っていますが、今年は小学校の普通教室の整備を行うことにより、教育環境のさらなる充実に取り組んでいます。

このほか、子ども家庭支援センターを設置し、関係機関等と連携して、幼児期からの子どもの発達、不登校や就労などの相談・支援を積極的に行っています。



◆挑戦し活力を産みだすまち《産業》

中国横断自動車道尾道松江線の全線開通を活かした産業振興を図るため、雲南市産業振興センターの専門スタッフを増強して、企業誘致、起業・創業支援などを強化しています。また、尾道松江線に隣接する「神原企業団地」の整備をすすめています。

さらに、観光・交流人口の拡大をめざし、雲南市の「食の幸」を活かした魅力あふれる商品の研究・開発を行う「食の幸」発信推進のための拠点施設の整備や、国民宿舎「清嵐荘」の改築整備、「たたら製鉄」を核とする観光情報の発信強化に取り組んでいます。

このほか、森林バイオマスエネルギー事業の拡大や市産材の安定供給の強化に向け、木材流通拠点の活用をすすめています。



「人口の社会増」に向けたリーディングプロジェクト

「子ども×若者×大人チャレンジの連鎖」による持続可能なまちづくり

日本の25年先の高齢化社会をいく雲南市。様々な地域課題に対し、前向きにチャレンジする人が生まれ、少しずつ成果を生み出しています。

雲南市は、キャリア教育を通じた「子どもチャレンジ」、若者による地域課題解決をすすめる「若者チャレンジ」、地域自主組織による住民主体の地域づくりの「大人チャレンジ」の3つのチャレンジを連鎖させ、10年先、20年先も市民みんなで課題を解決し、いきいきと暮らせる持続可能なまちづくりに挑戦します。

《6つのプロジェクト》

プロジェクト①

質の高い教育の提供による将来のまちづくりを担う人材の育成

学校・地域・家庭・NPO等との協働により、幼幼小中高一貫した多様なキャリア教育の展開と学力向上を図り、将来のまちづくりの担い手を育成します。

※キャリア教育 = 自立した社会性のある大人への成長をめざす人材育成



プロジェクト①
中学3年生を対象にした「幸雲南塾inさんべ」でのキャリアアップワークショップ。

プロジェクト②

大学機関やNPOと連携した課題解決人材の育成

本気で学びたい大学生に地域課題解決の現場を学ぶフィールドワークやインターンシップなどの学習プログラムを提供する「雲南コミュニティキャンパス」を開校し、課題解決人材の育成・確保を図ります。



プロジェクト②
東京大学医学部等と連携した地域フィールドワーク学習の試行。

プロジェクト③

課題解決人材の育成による若者チャレンジの創出

中間支援組織や社会起業家等と連携し、市内外の志ある若者の育ち合いを促進し、課題解決スキルをもつ若者の育成・確保と課題解決ビジネスの創出を図ります。

※中間支援組織 = 行政と地域、市民等の間に立ち、様々なまちづくり活動を支援する組織
※課題解決ビジネス = 社会課題（公共性のある課題）の解決を目的とした事業



プロジェクト③
若手人材を掘り起こす幸雲南塾（大人版）。最終報告会では地域を元気にする事業プランを発表。

プロジェクト④

産業振興センターの機能強化による新たな産業創出

専門スキル人材の配置等により、地域産業を支える多様な産業人材の育成・確保や市内事業所の販路開拓支援を通じて新たな産業創出を図ります。

プロジェクト⑤

地域やNPOと連携した課題解決人材のUIターン促進

地域自主組織やNPO等と連携した取り組みや積極的な情報発信により、地域課題解決に関心の高いUIターン者や活動実践者を獲得します。

プロジェクト⑥

地域自主組織の活動基盤強化による住民主体の地域づくり

地域自主組織の法人化や人材育成など活動基盤の充実強化を図り、住民主体の地域課題解決を促進します。



プロジェクト⑥
波多コミュニティ協議会で、地区内唯一の小売店の閉店に伴い、地域で運営する「はたマーケット」をオープン。



雲南市観光マップ

見どころいっぱいの雲南市が一目で分かるマップを紹介します。マップを片手に市内各地に広がるふるさとの風景をお楽しみください。

市内にはヤマタノオロチの伝説で知られる斐伊川が流れ、各地に神話や伝説が残り、加茂岩倉遺跡などの多くの遺跡や古墳が発掘されています。こうした遺跡や神社、地名の由来は、「出雲國風土記」にたどることもできます。

また、古くから斐伊川の支流の周辺の低地では農耕が営まれ、山間地ではたたら製鉄や炭焼が盛んに行われてきました。



加茂岩倉遺跡 (かもいわくらいせき)

加茂岩倉遺跡は、平成8年10月14日、農道の工事中に偶然発見されました。出土した銅鐻は、約45cm大のものが20個、約30cm大のものが19個、合計39個と、1カ所の出土としては全国最多であり、平成20年7月に国宝に指定されています。全国最多の銅剣が出土した出雲市斐川町の荒神谷(こうじんだに)遺跡と直線距離で約4キロしか離れていないことから、古代出雲に強大な勢力が存在していたことをうかがわせます。



三刀屋の御衣黄 (みとやのぎょいこう)

国道54号に沿って流れる三刀屋川の河畔も桜の名所です。約2kmにわたり約1,000本の桜が咲き誇ります。ソメイヨシノの開花から遅れること2週間、4月中旬から下旬にかけて緑色の桜「御衣黄(ぎょいこう)」が満開を迎えます。さわやかで気品ある色合いが貴族の衣装を思わせることからその名がつけられ、全国でも希少な桜として有名です。



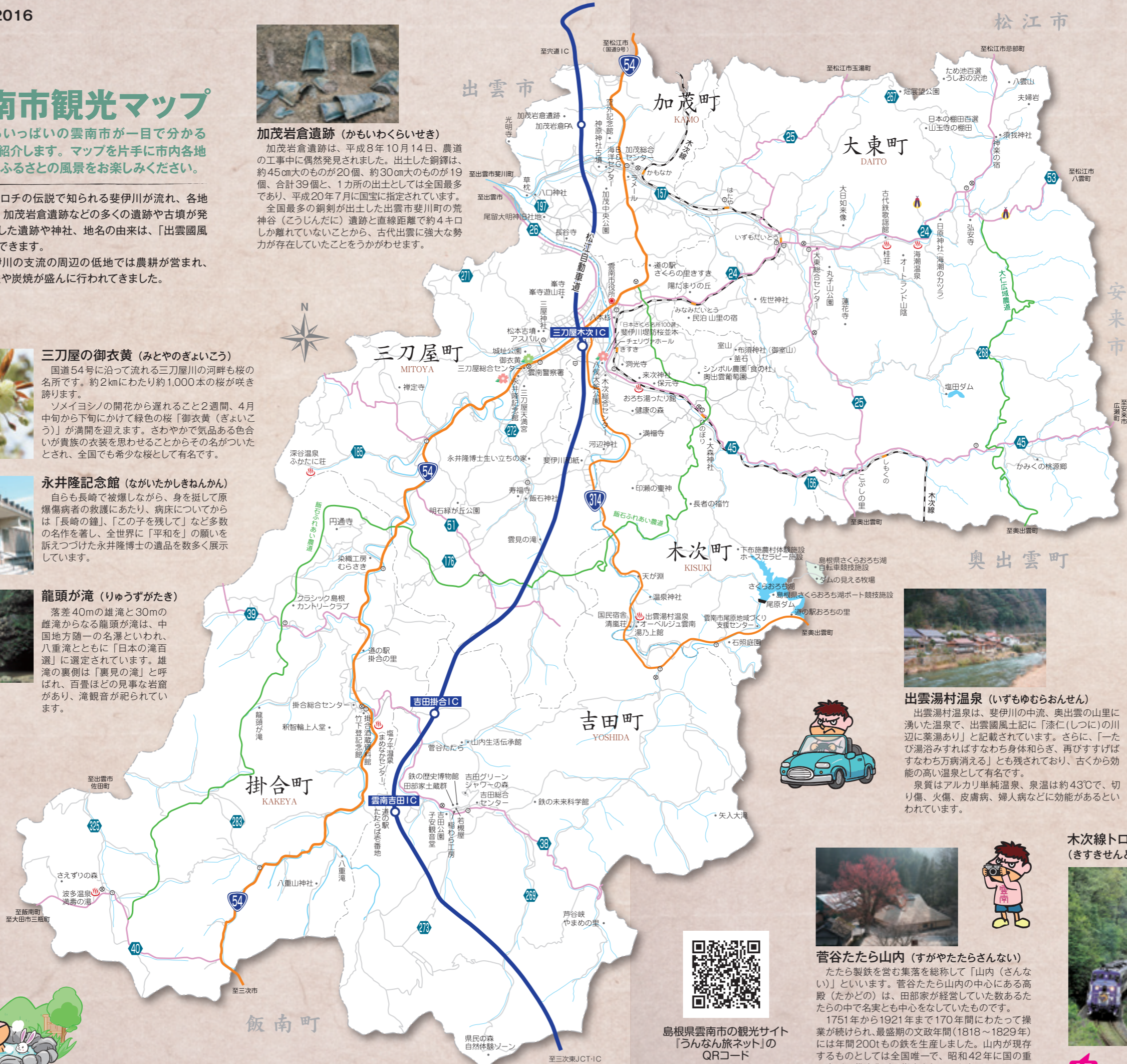
永井隆記念館 (ながいたかしきねんかん)

自らも長崎で被爆しながら、身を挺して原爆被害者の救護にあたり、病床についてからは「長崎の鐘」、「この子を残して」など多数の名作を著し、全世界に「平和を」の願いを訴えつけた永井隆博士の遺品を数多く展示しています。



龍頭が滝 (りゅうずがたき)

落差40mの雄滝と30mの雌滝からなる龍頭が滝は、中国地方随一の名瀑といわれ、八重滝とともに「日本の滝百選」に選定されています。雄滝の裏側は「裏見の滝」と呼ばれ、百畳ほどの見事な岩窟があり、滝観音が祀られています。



須我神社 (すがじんしゃ)

スサノオノミコトがヤマタノオロチを退治し、クシイナダヒメを伴って八雲山(やくもやま)の麓に至ったとき、「我此地に来て、我が御心すがすがし」といわれたことから、この地域を須賀(すが)というようになったと伝えられます。須我神社は、スサノオノミコト、クシイナダヒメが造ったとされる「日本初之宮」です。この宮を包むように美しい雲が立ち上がるのを見て、スサノオノミコトが「八雲立つ 出雲八重垣妻ごみに 八重垣つくる その八重垣を」と歌を詠んだことから、須賀の地は和歌発祥の地ともいわれています。



海潮温泉 (うしおおんせん)

斐伊川の支流、赤川の谷あいにも古くから湧く温泉で、約1,300年前に編纂された「出雲國風土記」にも記載が残っているのが海潮温泉です。泉質はナトリウム-硫酸塩・塩化物泉、泉温45.9℃で神経痛、慢性消化器病、慢性皮膚病、慢性婦人病などに効能があるといわれています。



斐伊川堤防桜並木 (ひいかわていぼうざくらなみき)

斐伊川堤防桜並木は、「日本さくら名所100選」に認定された中国地方随一の桜の名所です。毎年3月下旬から4月中旬には、約2km、800本の桜のトンネルが楽しめます。斐伊川堤防に桜が本格的に植えられたのは昭和初期のことで、以来戦争や水害などによる危機を乗り越え、現在に至っています。雲南市では、桜管理の専門職「桜守(さくらもり)」を配置し、樹齢80年以上になる老木の保護や新たな苗の育成に取り組み、桜のまちづくりを進めています。



出雲湯村温泉 (いずもゆむらおんせん)

出雲湯村温泉は、斐伊川の中流、奥出雲の山里に湧いた温泉で、出雲國風土記に「漆仁(しに)の川辺に葉湯あり」と記載されています。さらに、「一たび湯浴みすればすなわち身体和らぎ、再びすければすなわち万病消える」とも残されており、古くから効能の高い温泉として有名です。泉質はアルカリ単純温泉、泉温は約43℃で、切り傷、火傷、皮膚病、婦人病などに効能があるといわれています。



木次線トロッコ列車「奥出雲おろち号」

(ぎすぎせんとろっこれっしゃ「おくいずもおろちごう」)



菅谷たたら山内 (すがやたたらさんない)

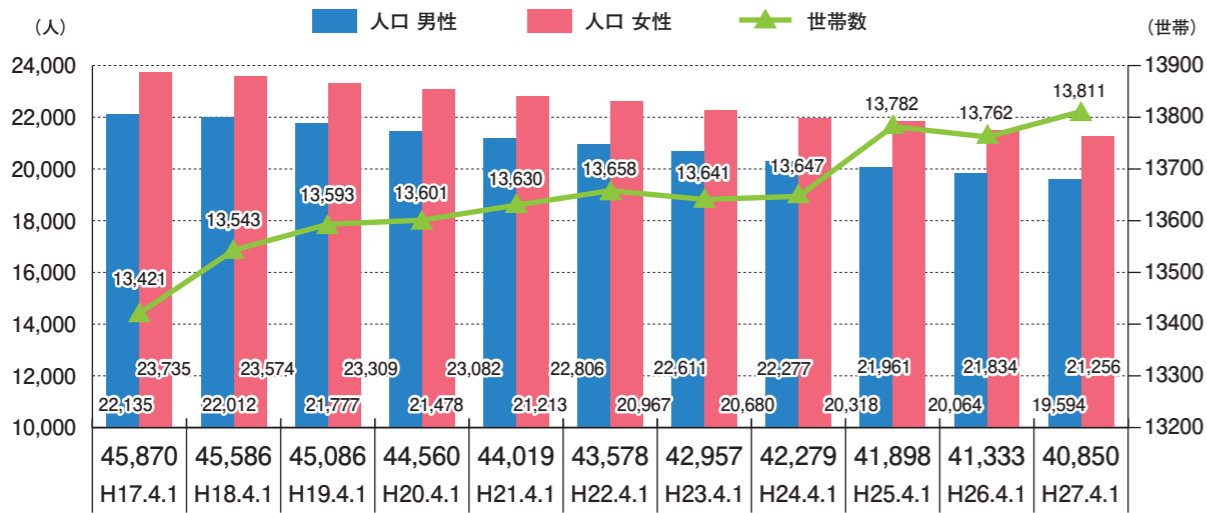
たたら製鉄を営む集落を総称して「山内(さんない)」といいます。菅谷たたら山内の中心にある高殿(たかどの)は、田部家が経営していた数あるたたらの中で名実とも中心をなしていたものです。1751年から1921年まで170年間にわたって操業が続けられ、最盛期の文政年間(1818~1829年)には年間200tもの鉄を生産しました。山内が現存するものとしては全国唯一で、昭和42年に国の重要有形民俗文化財に指定されています。



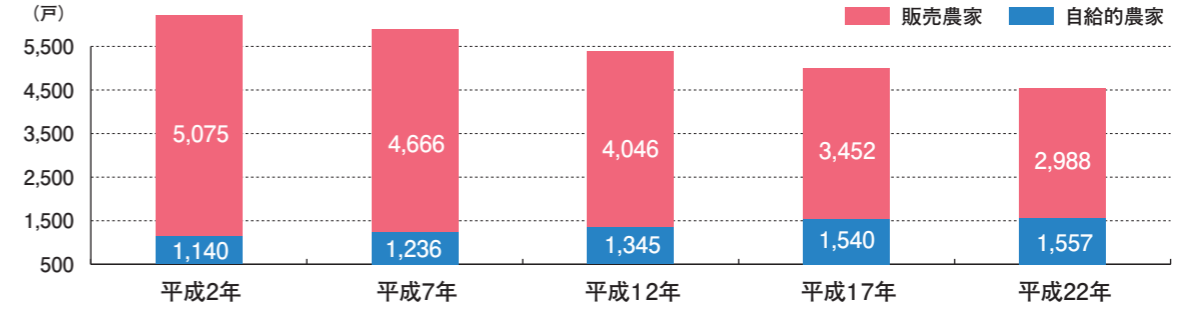
島根県雲南市の観光サイト「うなん旅ネット」のQRコード



人口及び世帯数 (住民基本台帳)



農家数 (農林業センサス)



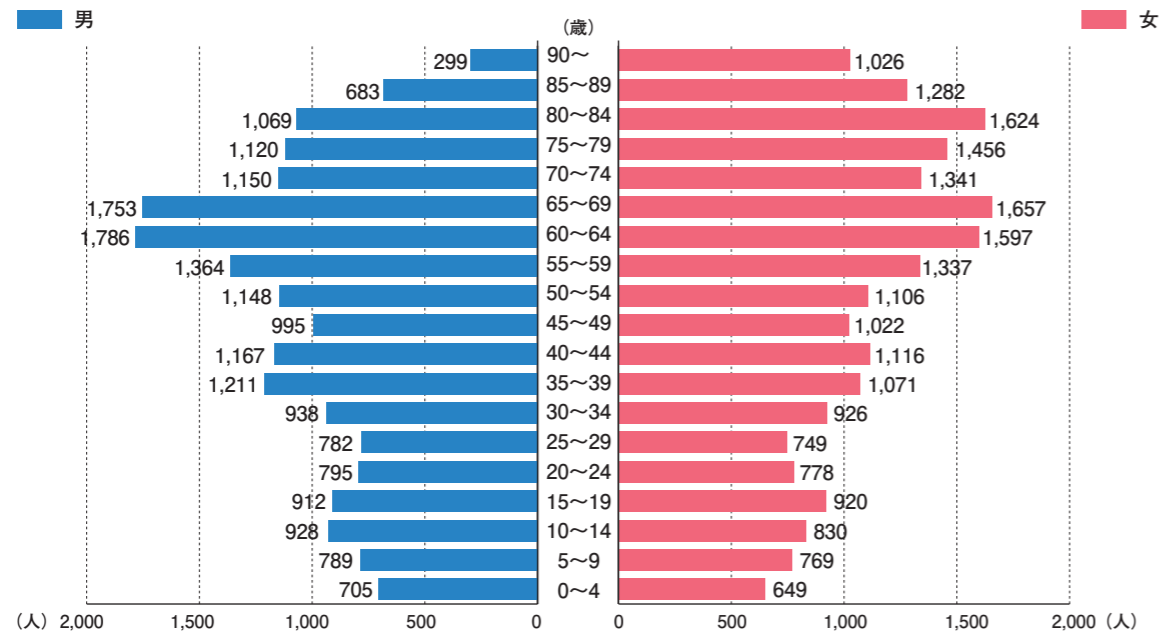
経営耕地の状況 (平成22年農林業センサス)

経営耕地 総面積	田				畑				樹園地	
	全体	稲	稲以外	未耕作	全体	普通畑	飼料用畑	牧草地		未耕作
2,167.1	1,809.1	1,572.7	110.1	126.3	294.8	225.8	11.4	13.3	44.3	63.2

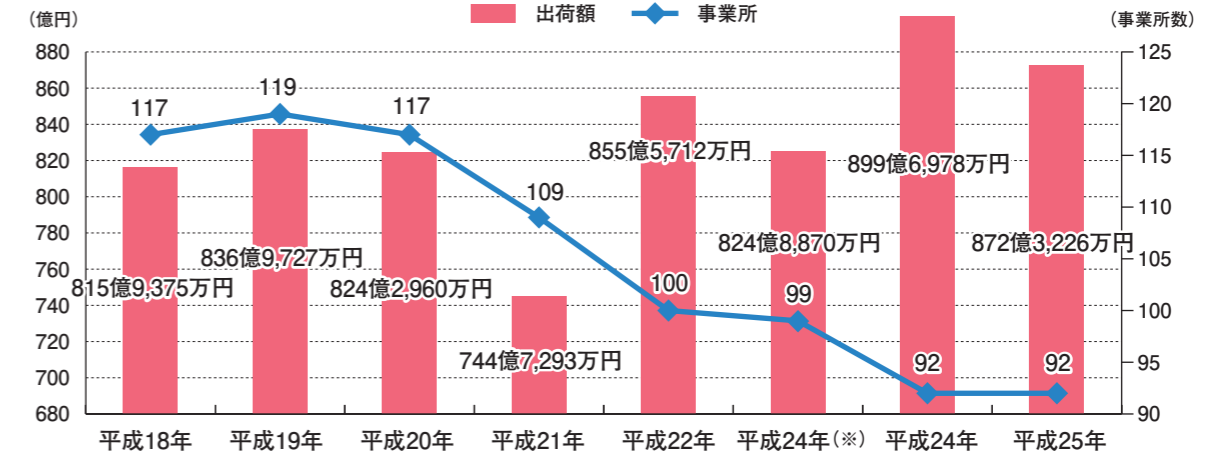
経営耕地面積規模別農家数 (平成22年農林業センサス)

規模(ha)	~0.3	0.3~0.5	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0~3.0	3.0~5.0	5.0~10.0	10.0~	経営耕地なし
戸数	12	1,059	1,445	321	85	29	25	7	1	4

人口ピラミッド (住民基本台帳 H27. 4. 1 現在)

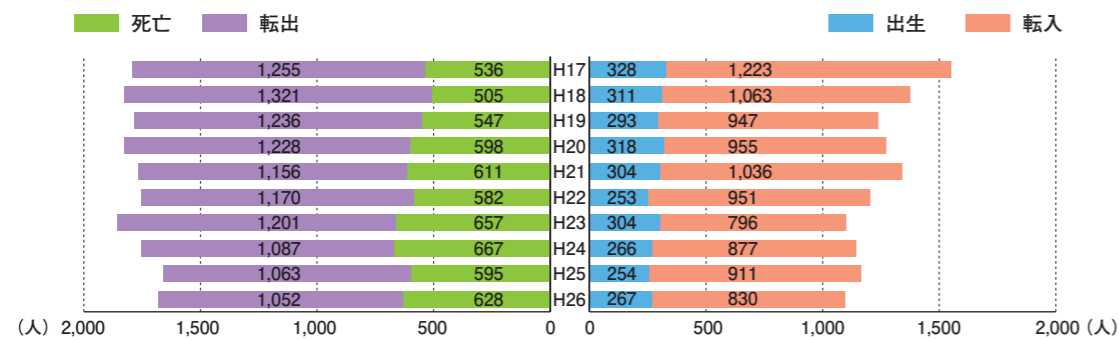


製造品出荷額等の推移 (従業者4人以上の事業所) (工業統計調査及び平成24年経済センサス-活動調査)

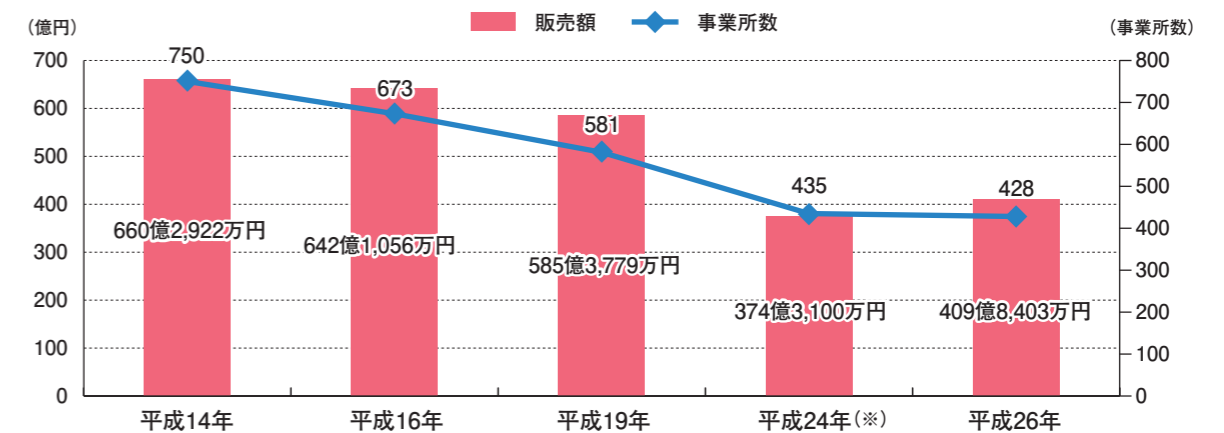


※H23は、工業統計調査(基準日:12月31日)は行われていないため、H24.2.1基準日で実施した平成24年経済センサス-活動調査の結果を参照。

人口動態 (島根県人口動態調査)

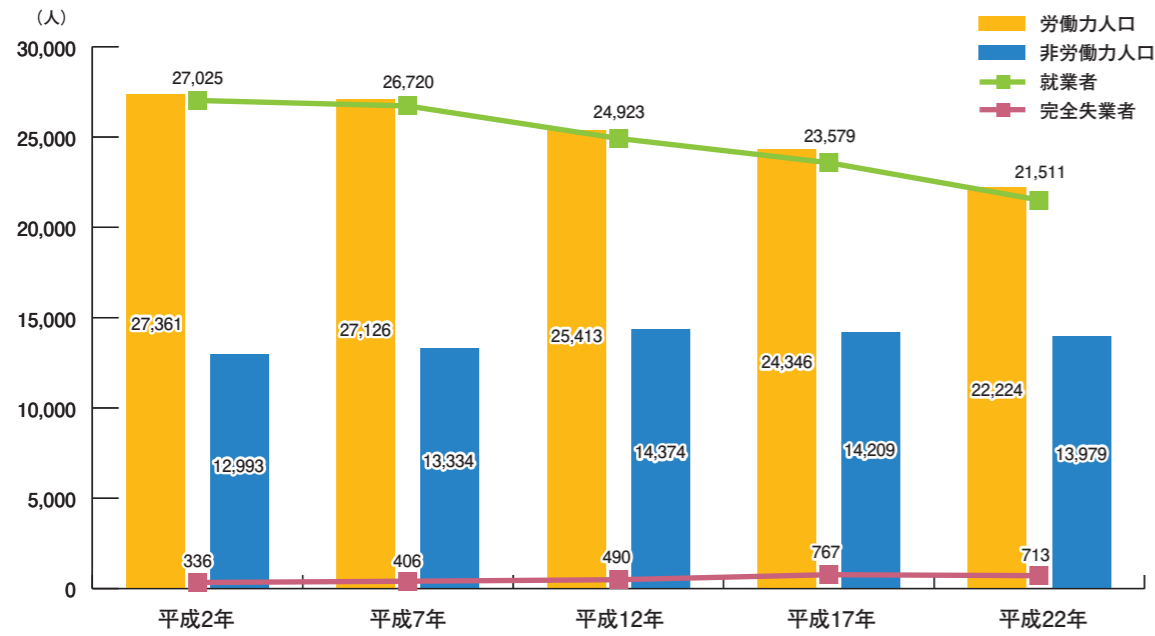


年間商品販売額等の推移 (商業統計調査及び平成24年経済センサス-活動調査)

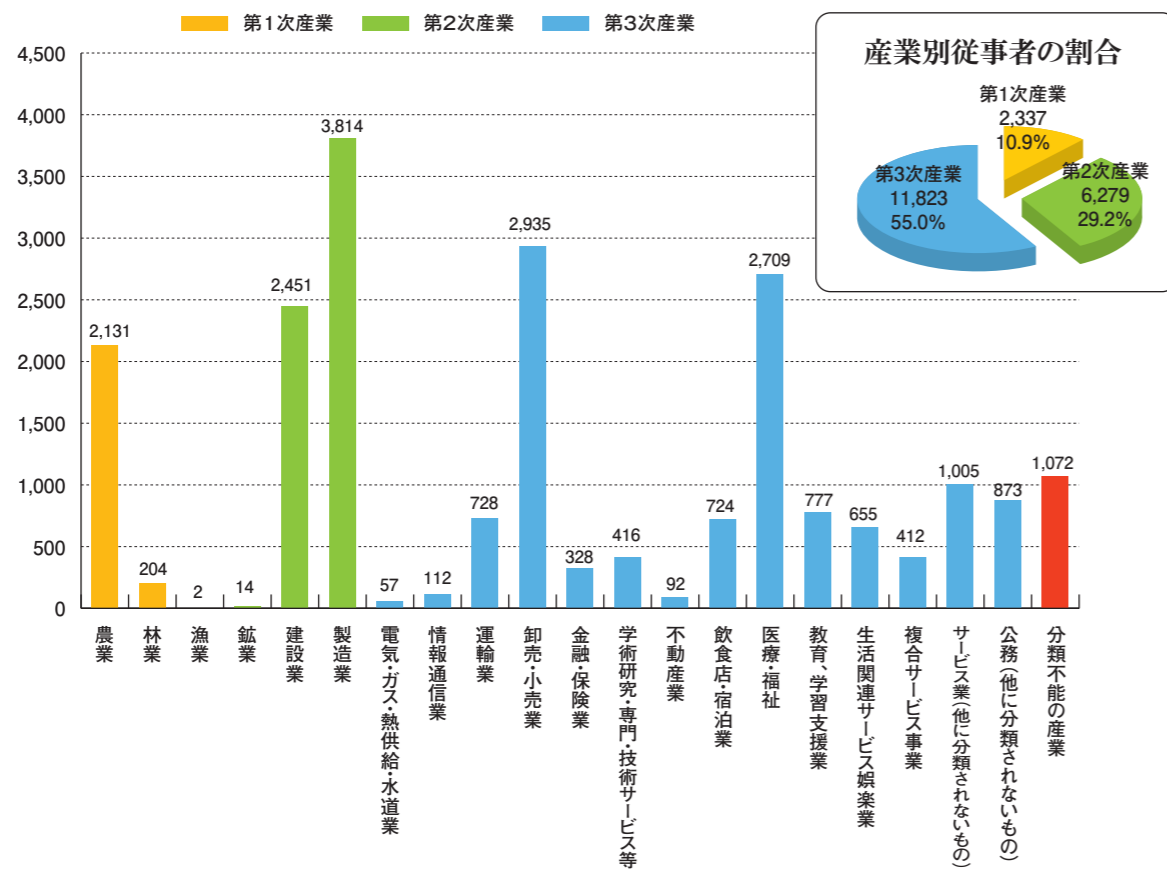


※H24は、H19以降商業統計調査(基準日:6月1日)は行われていなかったため、H24.2.1基準日で実施した平成24年経済センサス-活動調査の結果を参照。産業分類別に分類できない不詳事業所を除いて集計しています。

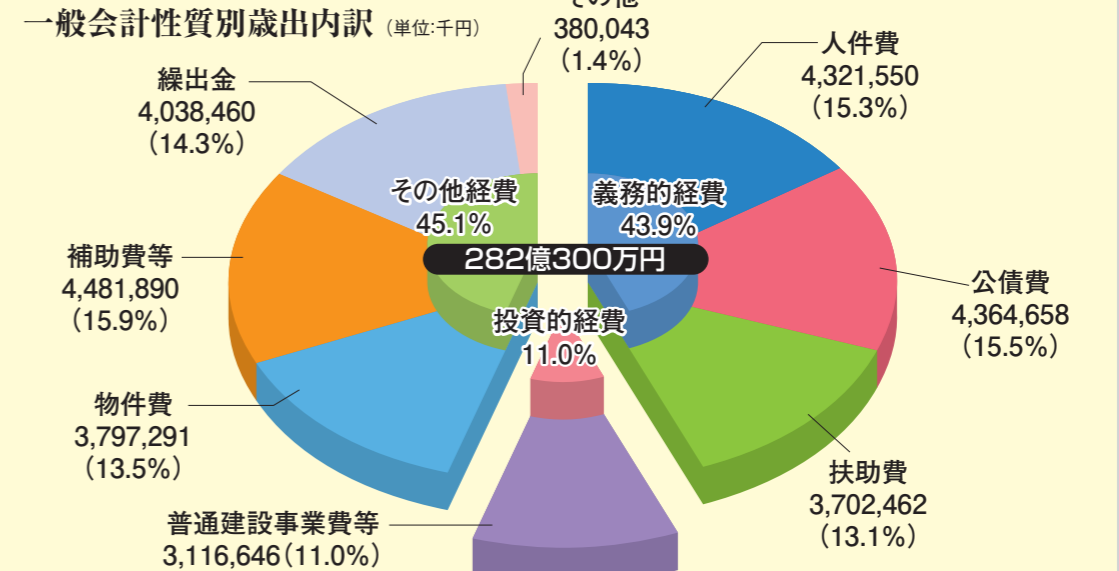
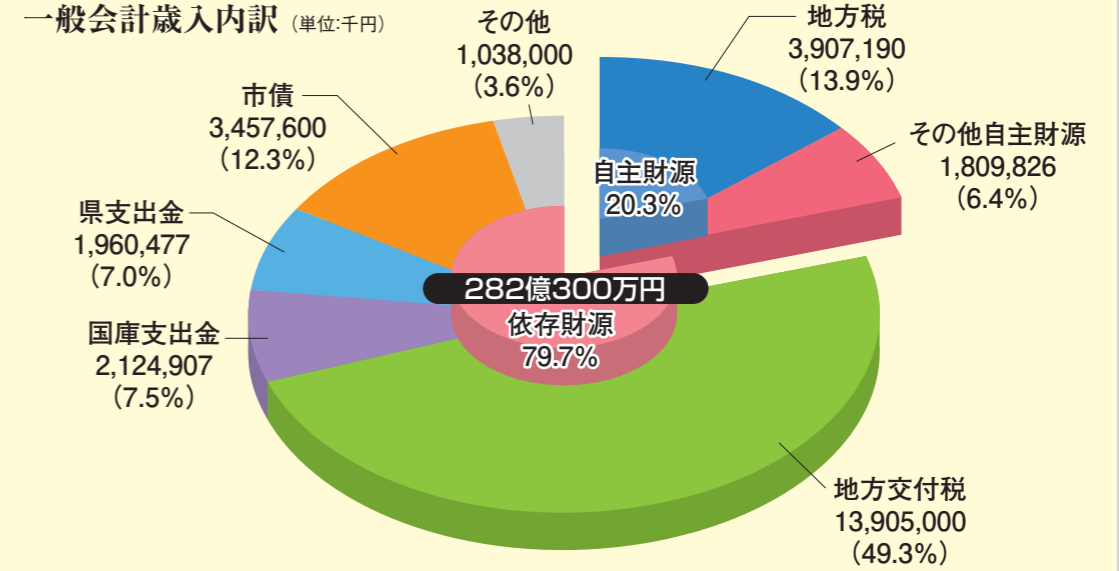
15歳以上労働力状態 (国勢調査)



産業別従事者数 (平成22年国勢調査)



平成28年度 一般会計当初予算額



平成28年度 会計別予算額 (当初予算)

会計別	28年度予算額	27年度予算額	増減額	
一般会計	282億300万円	297億9,700万円	▲15億9,400万円	
特別会計	国民健康保険事業(事業)	53億7,360万円	53億7,360万円	▲800万円
	国民健康保険事業(直診)	1億2,490万円	1億2,030万円	460万円
	後期高齢者医療事業	10億9,850万円	10億5,190万円	4,660万円
	農業労働災害共済事業	490万円	480万円	10万円
	簡易水道事業	7億8,960万円	5億1,940万円	2億7,020万円
	生活排水処理事業	28億2,250万円	26億610万円	2億1,640万円
	財産区	74万円	100万円	▲26万円
	土地区画整理事業	1億4,000万円	4億5,500万円	▲3億1,500万円
合計	385億4,974万円	399億2,910万円	▲13億7,936万円	

AR(拡張現実)動画を導入しています!



ARマーク

この市勢要覧内に掲載している写真にスマートフォンやタブレットをかざすと、映像が浮かび上がります。映像が流れるのは、ARマークがついている写真です。
 ※映像を見るためには、事前にスマートフォンやタブレットにアプリをインストールして登録しなければAR動画を見ることができません。
 アプリをインストール後、虫眼鏡マークで「雲南市」を検索。「雲南市's Public Auras」チャンネルを選択し、フォローします。その後、カメラモードに切り替えて、AR対応の写真にかざすと動画が流れます。



詳しくは雲南市ホームページへ

都市宣言

「平和を」の都市宣言 (平成 17 年 11 月 3 日)

雲南市男女共同参画都市宣言 (平成 25 年 11 月 30 日)

うんなん健康都市宣言 (平成 26 年 11 月 1 日)



市章 平成 16 年 11 月 1 日制定

雲南市の「U」をモチーフに、「いさぎとした自然・人・街（ふるさと）」「生命と神話が息づく新しい日本のふるさと」をイメージし、全体として、未来に向かって躍動・発展する雲南市を力強く表現しています。全国公募により、1,480点のデザインの中から、住民アンケートを経て選定されました。



市の木 いちよう (イチョウ科イチョウ属/原産地：中国) 平成 18 年 12 月 21 日制定

選定理由：いちようは、落葉高木で秋には黄色く色づきます。樹齢は、500～600年といわれ、生命力にあふれた樹木です。また、病害虫にも強くこの地域の気候や風土にも適した育てやすい樹木です。高さが20～45mと高く、天に向かって伸びていくその姿は威風堂々として美しくかつ雄大で、まさに雲南市の限りない発展を象徴しています。市内では官公庁や学校、寺社の境内などに見られます。春の桜の美しさに対し、秋にはいちようの黄葉で雲南市の美しい景観づくりを進めたいという思いを込めて選定しました。



市の花 さくら (バラ科サクラ属/原産地：日本) 平成 18 年 12 月 21 日制定

選定理由：日本さくら名所100選に選定された「斐伊川堤防桜並木」は、中国地方随一の桜の名所として花の見頃には、多くの観光客でにぎわい、その名を馳せています。また、三刀屋川堤防、丸子山公園、加茂中央公園など市内各地に桜並木があり、地域の皆さんに親しまれています。そのほかにも、三刀屋町の御衣黄桜、加茂町三代の枝垂れ桜などの珍しい桜や巨木など地域で親しまれている桜も多く、市内全域の山々には山桜が自生しています。このように雲南市民に広く親まれ、全国にアピールできる花として桜を選定しました。

姉妹都市 アメリカ合衆国インディアナ州リッチモンド市 (平成 26 年 8 月 11 日)

雲南市へのアクセス



出雲縁結び空港から
車（タクシー）で約20分



JR松江駅から
JR木次駅まで約1時間

JR出雲市駅から
JR木次駅まで約1時間

JR宍道駅から
JR木次駅まで約35分

JR木次駅から
徒歩で約10分



中国自動車道から
三次東JCT-ICから松江自動車道で45分
東城ICから国道314号で約2時間

松江自動車道から
三刀屋木次ICから約5分
松江玉造ICから35分
出雲ICから30分



発行：島根県雲南市 〒699-1392 島根県雲南市木次町里方521番地1
TEL:0854-40-1000 (代表)
<http://www.city.unnan.shimane.jp/>
e-mail:unnan-city@city.unnan.shimane.jp
発行年月:平成28年3月



雲南市ホームページのQRコード